

脳梗塞の新治療

ワイヤ絡め 血栓抜き取る

管（カテーテル）を通し血栓を取り除く治療が登場し、治療の幅が広がった。

（高橋圭史）

脳梗塞で倒れた際、血管に詰まった血の塊（血栓）を薬で溶かす治療（血栓溶解療法）が受けられるのは発症から3時間以内に限られ、それ以上時間がたった場合は従来、血栓を取り除く有効な治療法はなかった。2010年10月、血栓溶解療法が受けられない場合に、詰まった血管に細い

PA（「ティーピーイー」）の点滴治療は、受けた患者の4割が、3か月後にほぼ後遺症なく回復するとされる。ただし、tPAは新たな出血の危険も高まることから、対象は①発症から3時間以内で②CT（コンピュータ断層撮影法）検査で出血の危険が低いと確認できた場合とされ、救急車で運ばれた患者の半数にとどまる。それ以外は一般的に、脳のむくみを抑えたり血を固まりにくくしたりするなどの薬物治療が中心だ。新たに登場した「血栓回収

治療」は、脚の付け根の血管からカテーテルを通し、先端から、形状記憶合金でできたワイヤをらせん状に開くとともに、樹脂製の細い糸を出して血栓をからめ取り、引っ張り出す。ただし、血栓回収治療が可能なのは、カテーテルが入れる太さの脳血管が詰まった場合にに限られる。また、脳の損傷が進んだ後では効果がないため、発症から8時間までの患者を対象としている。

発症8時間内で有効

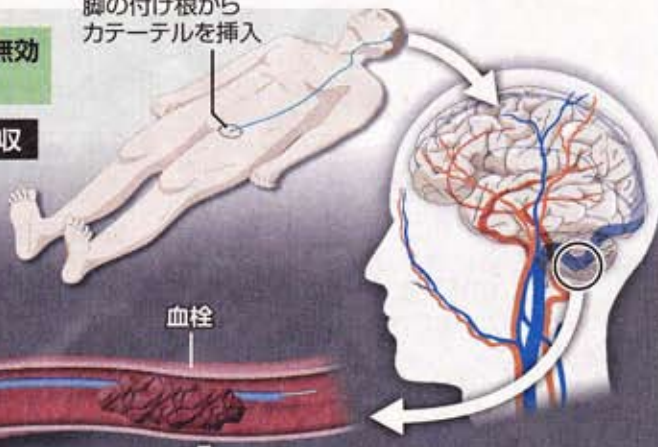
欧米では2000年代前半から実用化。米国の臨床試験では、tPAを使えなかった164人に行い、3か月後に身の回りのことを介助なしに行えるまで回復したのは36%だった。一方、死亡やまひにつながる脳内出血などの重い有害事象は9・8%にみられた。機器が血管を突き破って死亡した例もあった。

細い血管や大きく曲がった部位に用いるのは危険で、ワイヤで血管を傷つける恐れがある。虎の門病院（東京・港区）脳神経血管内治療科部長の松丸祐司さんは「安全に行うためには、十分に訓練した医師が行う必要がある」と話す。

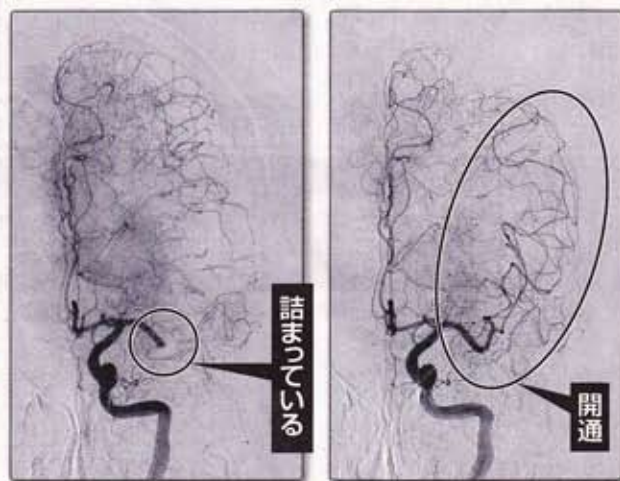
脳梗塞の新治療

血の塊（血栓）が詰まった脳血管内にカテーテル（細い管）を通し、らせん状のワイヤなどで血栓をからめ取る。血栓を溶かす点滴薬の治療は発症3時間以内が対象なのに対し、この新治療では発症8時間以内までが治療対象となる

脚の付け根からカテーテルを挿入



らせん状のワイヤで血栓をからめ取る



治療前

治療後

脳卒中

- 脳内出血
- くも膜下出血
- 脳梗塞

急性期（発症直後）の主な治療

3時間以内

→ tPA治療（血栓溶解）

tPAの対象外、または無効の場合で8時間以内

→ カテーテル血栓回収

※ 血栓の部位などによりできない場合もある

カテーテル

血栓

血管

その他の治療（点滴）

- 脳を保護する薬
- 脳梗塞の広がりを抑える薬

10年10月、同病院に救急車で運ばれた73歳男性は、当初まひの回復が見られたためtPA治療は見合わせた。その後症状が悪化。すでに発症から3時間以上たっていたため、血栓回収治療を行った。右手にややしびれが残るものの、10日後には日常生活に支障のない状態まで回復した。松丸さんは「3時間以内なら従来通りtPA治療を優先し、血栓回収治療はtPAの効果が出なかった場合や使えない場合に用いる」と話す。

日本脳神経外科学会、日本脳卒中学会、日本脳神経血管内治療学会は合同で、この治療ができる施設の基準を定め、医師にはメーカーによる研修の受講を義務づけている。メーカーによると、約400施設の約600人（1月6日現在）が受講を済ませた。